

もも栽培情報 第1号

令和7年2月27日
J A アルプス
富山県富山農林振興センター

1 概況

園芸研究所果樹研究センター（魚津市）では、「あかつき」の開花始め（2～3割開花した日）を4月10～11日（R6：4月7日、R5：3月30日、R4：4月9日、平年値4月9日）と予測しています（2月26日現在）。

なお、2月25日に気象台から発表された3か月予報では、3～5月の気温は、平年並または高い確率ともに40%となっています。開花時期が、現時点での予測より早くなることも想定して、整枝せん定・病害虫防除・摘蕾等の作業を計画的に進めてください。

2 病害虫防除

- ・発芽前は、縮葉病の重要防除時期です。散布ムラのないよう下表を参考に防除を実施してください。
- ・例年、縮葉病の発生が多い園地では、発芽前までに2回散布（1週間程度の間隔）すると発生抑制効果が高まります。

（散布量：300L/10a）

回	時期	対象病害虫	使用農薬	希釈倍率	100L 当たり 必要薬剤量
1	3月上中旬 (発芽前)	縮葉病、胴枯病、黒星病 展着剤	石灰硫黄合剤 マイリノー	7倍 20,000倍	14 L 5 mL

- ・カイガラムシ類が多い場合は、発芽前の暖かい日にトモノールS（50倍）を散布する。なお、トモノールSの散布前（10日程度の間隔）に石灰硫黄合剤を散布しなければならないので、計画的に防除を行う。また、カイガラムシ類多発樹は、散布前にワイヤーブラシ等で削り落とす（図1）。
- ・若木の凍害対策で、わら等を巻いた場合は、散布前に一度はずし、散布後、樹体が乾いたことを確認し、再度巻いておく。凍害のおそれがある4月上旬まで（開花直前の防除前まで）は巻いておく。

農薬散布の際は、濃度や対象病害虫など、農薬容器のラベルを必ず確認してください。また、周辺の他の作物や住宅等に薬剤が飛散しないよう十分注意してください。特に石灰硫黄合剤は、においが強く、金属等の腐食や変色を起こす恐れがあるため、事前に近隣へお知らせするなど、十分に配慮してください。



図1 ワイヤーブラシによるカイガラムシ類の削り落とし 上：削り落とし前（細かい粒状のものがカイガラムシ類） 右：削り落とし後
（日本なしでの実施例）

3 摘蕾（3月中下旬～4月初旬）

摘果作業を効率よく進めるため、4月初旬頃までに実施してください。

（1）摘蕾方法

- ・枝の上部（真上に向いている蕾）と下部（真下に向いている蕾）の花芽（写真1）を落とす。
- ・指の腹部分でなぞるようにして、全体の70%程度の蕾を落とす。
- ・葉芽（写真1）は傷つけないように残す。
- ・10cm以上の結果枝は、先端に果実を成らせないよう、先端の花芽も摘蕾する（写真2）。
- ・主枝・亜主枝・伸ばしたい枝の先端50cm程度は、新梢伸長を促すため、全て摘蕾する。



写真1 花芽と葉芽
（花芽：両側の膨らんだ芽、葉芽：中央の細い芽）



写真2 10cm以上の結果枝

（2）その他

- ・花粉がない品種（「川中島白桃」等）や花芽の少ない品種（「黄金桃」等）は、主枝・亜主枝・伸ばしたい枝の先端を中心とした弱めの摘蕾にとどめる。
- ・苗木や定植2～3年目までの幼木は、すべての花芽を摘蕾で落とす。
- ・樹勢の強い樹や枝は、やや弱めの摘蕾とし、樹勢の弱い樹や枝は、やや強めの摘蕾を行う。

4 その他栽培管理

（1）せん定

- ・石灰硫黄合剤散布前に終える。
- ・切り口には、必ずトップジンMペーストやバッチレートを塗布し、胴枯病等の発生防止に努める。

（2）せん孔細菌病の耕種的防除

- ・発芽せずに枯死した枝（写真3）は、病原細菌が越冬している可能性があるため、摘蕾作業時等に枯れた枝を見つけた場合は、すぐに切除して、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

黒っぽく変色



写真3 発芽せずに枯死した枝

●脚立での作業や、農業機械での作業時等の作業安全対策を徹底し、農作業事故発生防止に十分努めてください。